

黙示録22章 6-21 節：「わたしはすぐに来る」

ここに繰り返し出てくる言葉や言い回し：主イエスが来られるのが近い！

「わたしはすぐに来る」： 7,12,20 節

「時が近づいている」「すぐに起こる」： 6,10 節

→ 主の来臨の切迫性(imminency, 임박함)

6節： 真実の言葉

「信ずべきものであり」：これまで読んできたことは象徴的な表現が多かったが、そのまま受け入れて、信じるに値するものである。

7節： 約束された幸い

「預言のことばを守る」：ただ読んで聞くだけでなく、これを真剣に受け止めて行動に移す。

8-11節： 二極化される人々

「預言のことばを封じてはならない」：黙示録を読まない、教会で語らないことがあってはならない。

「不正…正しい者」：黙示録の言葉をまじめに受け入れる人と、そうでない人とでは、大きな差が生じる。

→ 終わりの時には、中間の人が存在しなくなる！ Yes or No!

12-15節： 二つの道

「報いを携えて来る」：預言の言葉を信じて生きる人たちに、主が報いを与えてくださる。

「アルファであり、オメガである」：イエス・キリストが全てである。

生活の全ての領域を、世界のすべての領域を、主が支配しておられる。

「自分の着物を洗って」：イエス・キリストの血によって、聖霊によって清められた人

「犬ども」：行くべき道が、真っ二つに分かれる！

16-17節： 教会の応答

「ダビデの根、また子孫」：ダビデの子がキリストになるという約束が預言されていた。(マタイ1:1)

「輝く明けの明星」：新しい日、新しい時代の光

「御霊も花嫁も」：御霊によるバプテスマを受けて、キリストのからだの一部になる。

「なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。(1コリント12:13)」

「来てください」： 主イエスを花婿として、愛し、待ち焦がれる声

「主を愛さない者はだれでも、のろわれよ。主よ、来てください。(1コリント16:22)」

マラナタ(maranatha, μαράνα θά)

18－19節： 黙示録、そして聖書の完全性

「付け加える」： 黙示録をもって神の啓示は完成した。したがって、その後に啓示があるとする教えは災いがある。 例： イスラム教のコーラン(Koran) あらゆるキリスト教系の異端

「取り除く」： 自分にとって不都合な箇所(例:災い)を、神からのものではなく、人が勝手に書いたものであるとすれば、その人は永遠の命を得られない。 例： 自由主義神学

20－21節： 最後のやり取り

「アーメン」： その通りです、の意味。

「主イエスの恵み」： 新約聖書の挨拶でよく使われる言葉。 神の救いはすべてイエス・キリストの恵みによって与えられる。